Asia Mesianic Forum 2014 Israel Tour

アジア・メシアニック・フォーラム2014イスラエルツアー

レポート アジアとイスラエルが ひとつになって

シオンとの架け橋　阿部和博

2015年にフィリピン・マニラで開かれる第4回アジア・メシアニック・フォーラムに向けて、去る11月21日から29日の9日間（現地日程）、イスラエルツアーが行われた。アジア各国のリーダーらと交流しながら、イスラエルで活動する多くのメシアニック・コングリゲーションや、歴史的施設を訪れて御業を学ぶもので、貴重な体験となった。

シンガポール、フィリピン、タイ、インド、韓国、台湾、日本の7か国から参加（**感想は3、4面**）があった。終わりの時にあたって、アジアの教会が果たすべき役割の大きさを痛感する旅ともなった。

ツアーのねらい

ツアーの目的は、預言成就としての現代イスラエル国家の誕生と、メシアニック・ジューの現状を知ると同時に、イスラエル社会におけるイェシュアに対する理解の変化、パレスチナ紛争の現状、イスラエル及びメシアニック・ジューの将来とビジョンを学ぶことにあった。

これまで東京・大阪、ソウル、シンガポールで開かれたフォーラムに、イスラエルから多くのリーダーを招いたが、今回はこちらから聖地イスラエルを訪問し、相互交流を通して主の御業を直接見聞きすることができた。

イスラエルのメシニック・ジューの現状

イスラエル北部では、恵みの天幕とその傘下のシャベイ・シオン、そしてカルメル・アセンブリーを訪問。中部では、ネタニヤで活動するベイト・アサフ、テルアビブのマオズ・イスラエル（**写真1**）、ベイト・イマヌエル、アドナイ・ロイ、エルサレム近郊のヤッド・ハシュモナ、そしてエルサレムのネティブヤを訪問した。イスラエル北部とテルアビブ、そしてエルサレムで活動する、現地に訪問できなかったリーダーたちとの交流会も行った。

いずれのコングリゲーションも、帰還者へのケアー、人道支援、兵士への支援、人工中絶反対活動など、イスラエル社会が抱えるさまざまな難題に対して、積極的に関わっていた。また多くのコングリゲーションで、若者のミニストリーが積極的に活動を行っていた。

海外から帰還した世代はロシア語などが中心だったが、現在の若い世代はヘブライ語が定着し、メッセージもヘブライ語で行われていた。しかしイスラエル社会で、メシアニック・ジューは依然、圧倒的な少数派で課題も残されている。全国的なキャンプ活動などを通しての、メシアニック・コングリゲーションのネットワーク化、海外の異邦人教会との関係強化によって運動全体の後押しを探っている。

アラブ人、パレスチナ人との和解

訪問先での交流で、ベイト・アサフのエバン・トーマス師は、パレスチナとの和解のミニストリーであるムサラハを紹介。「国際的な働きとして、メシアニック・ジューとアラブ人クリスチャンが一つとなって、神の御心を学ぶことは重要だ」と強調した。

ベイト・イマヌエルのデービッド・ラザルス師も、「私たちのコングリゲーションの名は、『神が共にいる家』という意味だが、福音はアラブ人にもユダヤ人にも、全ての人に開かれるべきである。私たち一人ひとりは神の宝である」と力説した。

ベツレヘムでホーリーランド・ミッションを導くパレスチナ人のナイム・コーリー師も、「神とアブラハムとの契約は絶対で、旧新約聖書66巻全てに神の御心が記されている。イェシュアはアラブ人、ユダヤ人両方の民族を愛している」と和解の重要性を説いた。

また、レバノンとの国境近くで伝道するアラブ人のヨセフ・ハダッド師は、「創世記12章でアブラハムが受けた祝福の契約に従い、イスラエルのために働きたい。私たちは共にメシアのからだである」と語った。

しかし7月のガザ戦争の影は深く、和解の課題は残されている。

アジアの可能性・課題と使命

「神は、イスラエルとアジアとの関係を強めている」と、カルメル・アセンブリーのピーター・ツカヒラ師はアジアの役割を強調した。またエゼキエル書43章を引用してイスラエルの回復と役割を確認。イスラエルの東側こそ第一線の扉であり、現にエルサレムの東の門はメシア再臨の門であり、東の地であるアジアが、再臨の備えを急ぐべきであると指摘した。

そして、「イスラエルは祭司の国であり、神の王国をこの地に実現するために、神は明確にイスラエルを支配されている。アジアのクリスチャンはこの点に注目し、王国の実現のために働いて頂きたい」と述べた。

「タイや日本で、人口の1%以下しかクリスチャンがいない原因は、生きた王がいることだが、その王は象徴でしかなく、本当の王であるメシア・イェシュアを宣べ伝え、そしてアジアからイスラエルへ福音を戻すべきである」

と、強い期待を込めて語った。

❦ホロコースト生存者との交わり

レオン・マジン師が指導するシャベイ・シオンで、ホロコースト生存者とのシャバット・ディナーが開かれた（**写真2**）。参加された生存者の方は50人程で、多くが90歳代と思われたが、とても明るく健やかに見えた。穏やかな顔立ち、静かな口調のなかにも、悪夢の時代を生き抜いてこられた苦悩が、深く刻まれたしわから伺えた。

数人の方が挨拶されたが、一人の女性は、「人生には良いこと、辛いことさまざまあるが、全ては神が裁かれること」ということばが印象的だった。

❦メシアニック兵士との交わり

メシアニック兵士7人との交流会も持たれた（**写真3**）。私のテーブルには、若い女性兵士と兵役を終えた青年が着席。女性の任務を尋ねると、世界でも屈指の戦車「メルカバ」の操縦と射撃の教官とのこと。年令と容姿からは想像もできないことだった。

また空軍に所属している人など、最前線にいる方々の体験談から、イスラエルの置かれている現実の厳しさを感じた。若者たちの国を守る強い意志には驚くばかりであったが、多感な年ごろだけに、多くのメシアニック・コングリゲーションでは、カウンセリングに力を入れている。

❦セミナー開催　最新情報に触れた

1日半にわたってセミナー開催。初日は、「イスラエル社会と人々を理解する」と題し、イスラエル軍広報官のニール・モラー氏が語った。7月のガザ紛争や、シリヤ、レバノン国境でテロを繰り返す「イスラム国」、インティファーダなど中東の動向を話された。特にガザ戦争の緊迫化したなか、二人のフランス人ジャーナリストが救出されたことについて詳細な報告があった。

ヘブライ大学比較宗教学教授セージ・ルーザー博士は、イスラエルにおける「イェシュア」の受け止め方の変遷を講演。学問の世界においては、新約聖書についてより広い見解が持たれるようになっていると述べた。

二日目はこれまでAMFの講師をつとめた指導者たちが、「メシアニック・ジュー　イスラエルとアジアの将来とビジョン」と題して語った。

ヨセフ・シュラム師は、キリスト教は、西洋化されたイェシュアではなく、イスラエルに来て、ユダヤ人から聖書にある真のイェシュアを学ぶべきだと力説。

アキバ・コーヘン師は、イスラエルはいまだ捕囚の民と同じ状態で、霊的に開かれていない。そのために、聖書に基づく文化をイスラエルのなかに作る必要があると語られた。

ピーター・ツカヒラ師は、神から与えられた責任、創造の目的を見つけることや、神が最終的に何を求めておられるかを、主に尋ねるべきであると説いた。

❦苦難の歴史を訪ねて

イスラエル建国に関する施設の訪問としては、独立記念ホールを訪ねた。ここには建国の父、テオドール・ヘルツェルの写真が中央に掲げられている。デービッド・ベングリオンが、この場所で独立宣言を発した。

次に、アトリット収容所跡を見学したが、日本人の団体の訪問は初めてとのことだった。この収容所は1917年から48年までイギリス統治下にあったイスラエルに「違法入国」したユダヤ人を収監した施設で、同様の建物は、当時キプロスにも作られていた。

そしてベイト・リッドテロ犠牲者追悼館を訪問した。イスラエル国防軍を狙った自爆テロで、21人の兵士と一般市民1人が犠牲となり、国防軍の死傷者としては建国後最悪の事件となった。祈念公園にはモニュメントが建てられ（**写真4**）、犠牲者を追悼していた。

アヤロン博物館は、イギリス統治下にあった時代、独立戦争に備えて秘密裏に弾薬を製造した秘密工場。イギリス監視下での弾薬製造が非常に困難であったことが、展示によって解説されていた。

最後に、67年、六日戦争の激戦地、弾薬の丘を訪問した。ここは戦争前までヨルダンの要塞が置かれ、エルサレム再統一を実現するには重要な戦略的拠点であった。イスラエルは見事な作戦でこれを取り戻し、エルサレム再統一に導かれた歴史的場所である。

ガザ地区に近いキブツ・ニール・アムに向かった。夏のガザ戦争では大変な被害を出した場所である。現在でも、いつ空襲警報が鳴るか分からない状況とのことで、緊張感を覚えた（**写真5、ガザ地区のために祈った**）。

❦おわりに

現地滞在は9日間であったが、イスラエル回復に向けて、多くの見解を聞くことができた。

現代イスラエルが建国される過程で、あまりにも多くの犠牲をこの国と国民は払ってきた。一方アジアにおいて、イスラエルを愛し、祭司の国イスラエルの回復を願う人々が起こされている。霊的使命を果たすことは容易ではないが、終わりの日を急がれる主の御心を黙想したい。

Asia Mesianic Forum 2014 Israel Tour

アジア・メシアニック・フォーラム2014イスラエルツアー

参加者の感想と感動の声

✤日本からの参加者の感想

✎松本信章（ゴスペルミッション）

兵庫県尼崎市で6年前からJFPという教会名で開拓伝道をしています。3年前から、関西とイスラエルでユダヤ人伝道を始めました。そのきっかけは、また今度ゆっくりお話を聞いて下さい。ツアー参加の動機は、現地のメシアニック・ジューの教会を訪ね、現状をよく把握する機会だと思ったからです。

多くのメシアニック・ジューのリーダーたちと出会い、それぞれの教会の歴史や働きを聞くことができました。ホロコースト生存者との交わりとお話を聞く事もでき、滅多にない機会で、特に心に残りました。

私は英語ができません。思うようにお話もできず、苦しい思いもありました。しかし、メシアニック・ジューの兵士たちとの交わりで、神様は私の昔からの友人と再会させて下さいました。エルサレムでも、家族ぐるみで交流して来た家族とバッタリ会わせて下さるなど、沢山の体験と感動と感謝を頂き、胸いっぱいで帰国できました。

ツアーの内容を、今の時点で簡単に話すことは、難しく、ひとことで言うなら「詰め放題の買い物」でしょうか……。沢山の詰め込みを取り出して、整理をしている途中です。このようなツアーを企画して下さり、本当にありがとうございました。

✎日本からの参加者の感想

ハイファでの交流会

3度目のイスラエル訪問になりました。このツアーでは、今までと全く異なる経験をさせて頂きました。単なる聖地旅行とは違い、イスラエルの歴史から、イスラエルという国を掘り下げて学び、ユダヤ人とは、またユダヤ人にとってのイェシュアとは、ということを、異邦人クリスチャンとして一番理解しなければならない真髄の部分として学ばせて頂きました。

アトリット強制収容所、弾薬の丘、地下武器工場など、普段は絶対に足を運ばない場所へ行き、なんと神様はイスラエルを心から愛し、守って来られたか、心底感じる事ができました。神様のご真実と哀れみを目の当たりにし、深く感動しました。

フォーラムでは、ヨセフ・シュラム先生の、「違う国の異なったイエス像を輸入しないで下さい」ということばが私の心に深く残りました。イェシュアは例祭を守ってきたユダヤ人であり、私たち異邦人が手を加えた、間違ったイエス像をイスラエルの地で伝えようとすることはお門違いであると改めて気付きました。

私たちは、異邦人として何ができるのか？　深く考えさせられるフォーラムの時間でした。進学するにつれ懐疑主義や資本主義にさらされるメシアニック・ジューの若者たちの信仰のため、またイスラエルを守る兵士のため、私たちは祈らなければならない……。イスラエルの本質に目を向けることのできる素晴らしいツアーでした。

この貴重な10日間を計画して下さったシオンとの架け橋と、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

✤最後の集会で、各国参加者の感想

✈アンドリュー・イェルチュリ（インド）

7か国からの参加者の、友情と関係が深まりました。イスラエルや、イスラエルのビリーバーとの関係も深まった素晴らしい時でした。

4度目のイスラエル訪問ですが、今回は観光ではなく、現地のビリーバー訪問が中心で、再臨が近づく今、私たちの聖地訪問はこのようであるべきだと思いました。これは預言の成就でもあり、本当に現地のビリーバーとつながることができました。特に兵役中のビリーバーなど次世代を背負う人々に会えたのは祝福でした。彼らは現在の指導者たちより強くたくましく、将来に希望がもてました。

✈ギルバート&アルメナ・カルディゲス（シンガポール）

このツアーは爆発的な体験でした。この働きはもっと広げて行く必要があります。そして、アジアが、中田重治師のビジョンのように、東方の天使の使命を果たすことになるでしょう。

✈ヌアン・トラカンパイロ（タイ）

13年前から60回以上にわたってさまざまなツアーを主催し、タイの人々をイスラエルに連れて来ました。

そして、次の段階は何かと考えていたのです。このツアーに参加して本当に良かったと思っています。小さな働きですが、神は小さな働きから事を起こされます。今回の交流で、大変祝福されました。

✈ビューラ・バドゥア（フィリピン）

30回以上イスラエルを訪問していますが、今回のツアーは最高の旅の一つです。メシアニック運動の発展を立体的に見ることができました。

はじめてイスラエルを訪問した1991年に出会った、ギターを弾くだけの若者が、今はビジョンを語る立派な指導者になっているのです。イスラエル生まれのビリーバーが増えているのも、大きな驚きでした。かつての訪問では想像もできなかったほど、この運動は成長しています。

帰国したら、今回見聞きしたようなメシアニック運動の歴史や神学についても牧師たちに教え、理解を深めて行こうと考えています。

✈TJ&アンジェラ・シェ（台湾）

これまでのイスラエル訪問では、メシアニック運動の一部を見ただけでしたが、今回は全体像を見ることができたと思います。

あまりにも情報量が多かったので、まだ消化しきれないほどです。神はイスラエルで素晴らしい事をなさっていると実感できました。これは、長い努力の結果です。参加者が本当の家族のようになったのも大きな成果でした。

✈ソ・ドンスク（韓国）

ツアーを申し込んでから健康上も問題があったのですが、守られて参加できたのは御心だったと思います。

このツアーは素晴らしいもので、もっと参加者があればよかったと感じました。聖書を歴史的側面から見ることも重要なので、このツアーはとてもよかった。教会が聖書の歴史的側面を回復する助けに、このツアーがなればと思います。

✈日本からの参加者

教会でイスラエルのために祈っていましたが、訪問は初めてでした。ビリーバーの兵士たちと会ったり、さまざまな活動を通して理解が深まりました。7か国からの参加者がそれぞれの言語で祈りの時を持ったのも、特別な体験でした。

✤現地リーダーの感想

✐エリザベス・レビ（カスパリ・センター　エルサレム）

皆さんをお迎えできたのは祝福でした。私にとって、アジアからのお客様は初めてで、イスラエルとユダヤ人を愛するこのような人々がいることを、主に感謝します。

✐エバン・トーマス

（ベイト・アサフ・コングリゲーション　ネタニヤ）

アジア各地の親愛な兄弟姉妹が共に、ベイト・アサフを訪問して下さったことに感謝します。私たちは皆さんとの交流の準備を楽しみ、ご期待に添えたことと思います。皆さんが神の王国、特にイスラエルの信者たちに行っておられる努力を、神が祝福して下さいますように。

✐ヨセフ・ハダッド（アラブ人牧師）

ハイファでの、アジアの兄弟姉妹との交流会は、真の祝福でした。私が牧会しているナハリヤのレバノン人教会のために、特に幼い子どもの両親が適切な仕事に就いて生活が成り立つように祈ってください。彼らは難民で仕事がなく、皆さんの祈りと支援を必要としています。

✐レオン・マジン

（シャベイ・シオン・コングリゲーション　ハイファ）

皆さん全員が、私たちと、ホロコースト生存者にとっての祝福でした。皆さんのお陰で、彼らと素晴らしい時を持つことができました。

また、聖地のメシアニック・ジューと東方の皆さんをパートナーにしてくださった主に感謝します。アブラハム、イサク、ヤコブの神が皆さんを祝福されますように。

✐ヨナタン・アルメイダ＆ヤコブ・パラン

（シャアル・ハエメク・コングリゲーション　エズレルの谷）

アジアの素晴らしい兄弟姉妹との出会いを感謝します。アジアの信者とイスラエルのキリストのからだをつなぐ皆さんの、極めて重要な働きを主が用い続けられますように。

✐ナイム＆エルビラ・コーリー

（ホーリーランド・ミッション　ベツレヘム）

皆さんの訪問は素晴らしいものでした。主が皆さんを祝福されますように。この地を訪問し、楽しんでくださったことに感謝します。

✐アキバ・コーヘン

（ゲシェル・フォーラム　モディイン）

皆さんに語る機会を与えて下さって感謝します。主が、アジアとイスラエルのメシアのからだを織り合わせ、イスラエルのメシアのからだを強めておられることを感じ、大変祝福されました。皆さんが主の名のゆえに行っておられることへの感謝を込めて。

✐アイェレット・ロネン

（ヤッド・ハシュモナ　エルサレム近郊）

訪問して頂いてありがとうございました。イスラエルと現地のビリーバーへの関心を持っておられるのは素晴らしいことです。興味を示し、質問もいろいろして下さいました。皆さんも楽しんで頂けたのなら嬉しいことです。

✐ヨエル・ゴールドバーグ

（ネティバー　ネタニヤのユース・ミニストリー）

皆さんのグループに出会い、私たちの働きについてお話しできたのは祝福でした。皆さんの活動の一部に加われたことを誇りに思っています。

✐イスラエル・ポチター

（ベイト・ハレル・コングリゲーション　アシュドド）

皆さんのイスラエルへの祈りと愛に感謝します。アジアの兄弟たちがイスラエルの兄弟と共にあり、聖地での働きを支援しているのは素晴らしいことです。次回はぜひ私たちの所にも来てください。

Jewish Calendar

2月4日 טו בשבט（トゥ・ビシュバット）樹木の新年

3月5日 פורים（プリム）エステル記の事件を祝う祭

4月4日-10日 פסח（ペサハ）過越の祭